

「予備自衛官になって」

茨城地方協力本部

予備2等陸曹 佐藤 晶子

(平成26年7月予備自衛官補(技能)採用)

(平成26年9月15日予備自衛官採用)



私は、看護師の資格を取得してからあっという間に14年が経過した。そんな中、地域の広報誌を見て「予備自衛官制度」があることを知った。災害看護に興味があり、日本のDMATの資格も有しているがDMATの場合、多くは災害急性期が活動主体となる。しかし、災害急性期だけが活動の場ではない。災害が発生すると、急性期だけではなく災害フェーズごとの連携活動が必要だ。

自衛隊組織はとても大きく、力を備えた組織である。東日本大震災の時には、急性期から復興期まで、被災者の方々とともに、救援活動を続けていた、自衛隊の方々の姿に感銘を受けた。私も「人の役に立ちたい」という思いで、予備自衛官になることを決意した。

10日間の技能訓練では、仲間との営内生活、基本教練、体力測定、射撃訓練、衛生部訓練隊と、あっという間の10日間であり、チームワークの重要性を再認識した有意義な訓練であった。

初めての生活で戸惑いや、時には班長から叱られる事も、しばしばあったが、自衛隊の事を何も知らない私達に、諦めず教育してくださった327中隊の教育関係者の皆様には改めてお礼の言葉を述べたい。「ありがとうございました。」

今後は、看護師として、予備自衛官として使命の再認識をし、自己研鑽していきたいと思う。

「予備自衛官補から予備自衛官 そして一般幹部候補生へ」



茨城地方協力本部

予備2等陸士 齊藤 哲郎

(平成25年7月予備自衛官補(一般)採用)

(平成25年12月15日予備自衛官採用)

(平成26年度一般幹部候補生試験合格)

予備自衛官補には、就職活動を意識し始めた時期に、大学の掲示板で募集のポスターを見つけ、この予備自衛官補制度をインターンシップに利用しようと、軽い気持ちで志願しました。予備自衛官補の訓練に参加すれば、他の就活生とは違った経験をしてきたと就職活動の際にアピールできると考えていたからです。そして、平成25年度に予備自衛官補(一般)に採用されました。

訓練は5日間を一つのセットとし、10回行われました。初めて武山駐屯地に出頭を命ぜられた際、漫然と楽しみだな、としか考えていませんでした。しかし、班長達の怒号と精神的に厳しい訓練によってその考えが甘かったと思いしらされることになったのです。最初はただただ時間が無く、早く終わってほしいと思うばかりで、回りを見る余裕などありませんでした。しかし、何回も訓練に参加しているうちに要領がつかめてきて、余裕がもてるようになると、一緒に訓練をうけてきた仲間たちの志の高さと、指揮してくださった要員の方々の「国防」に対する熱い思いを感じることができました。そんな中、自分の心に予備自衛官補から予備2等陸士に任命されると同時に、常備自衛官になろうと決心しました。そして、予備自衛官補から幹部候補生になった同期から、一般幹部候補生を勧められ平成26年度に合格することができました。

その後、予備自衛官として初めて古河駐屯地で行われた訓練に参加したとき、現職の自衛官の方や、予備自衛官の先輩方が幹部自衛官になった際の心構えや、部隊でどのように振る舞えばいいかなど、親身になって話して下さると同時に、施設重機の操縦など貴重な体験をさせていただきました。

これから久留米でより厳しい教育と訓練がありますが、それを乗り越えて、今まで私を支えてくださった多くの方々の役に立てるような幹部自衛官になりたいと思います。